

## 神戸大学ユネスコチェア事業を4月から開始！

Gender and Vulnerability in Disaster Risk Reduction Support

内田一徳 理事・副学長  
(広報・社会連携・同窓会・

基金担当)

男女共同参画推進室  
アレキサンダー ロニー

室長

神戸大学は、ユネスコとの間でMOUを締結し、男女共同参画推進室が中心となって、神戸大学ユネスコチェアの事業を本年4月1日から開始することになりました。

ユネスコチェアとは、知の交流と共有を通じて、高等教育・研究機関の能力向上を目的とするユネスコの認定プログラムです。認定された高等教育・研究機関は、国際的な連携・協働を促進することにより、人的・物的資源のシンクタンクとして、また教育・研究機関、地域コミュニティ、政策立案者間の橋渡しの存在としての役割を担うことを目指します。2018年2月1日現在、世界でユネスコチェア事業の実施機関は700以上にのぼります。

本事業では、インドネシア・ガジャマダ大学、マレーシア・トゥンクアブドール・ラーマン大学、NPO法人MERCY Malaysia、タイ・タマサート大学、台湾・高雄科技大学及び日本の国立女性教育会館と連携し、Gender and Vulnerability in Disaster Risk Reduction Support（ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策）をユネスコチェア事業として2017年4月、ユネスコに申請しました。ユネスコでの厳正な審査を経て本事業が採択され、ユネスコ事務局長オドレー・アズレー氏と神戸大学学長武田廣との間でMOUを締結し、2018年4月1日から事業を開始することになりました。神戸大学では初めてのユネスコチェア事業であり、またジェンダーや災害弱者の観点から自然災害を捉える文理融合型事業としてユネスコからも注目されています。

本事業では、災害の多いアジアに位置する多くの機関と連携することによって、本学をジェンダーや災害弱者の視点から減災を考えるアジアの教育・研究拠点とするものです。教育面では、本年9月にインドネシア・ガジャマダ大学において、神戸大学、ガジャマダ大学、高雄科技大学の学生を対象とするサマースクールを開催する予定です。サマースクールでは、保健学、平和学、工学、経済学、法学などの多様な分野の講師による減災についてのレクチャーを行うだけでなく、NPO法人所属の講師から災害救援の実践についても説明を行います。レクチャーの後、国籍、文化、宗教、専門分野も異なる学生がグループとなってワークショップを行い、ジェンダー・災害弱者の視点からの減災を考えていきます。

研究面では、連携機関が協力して減災研究を行い、学会誌などの専門誌への投稿だけでなく、成果を広く周知するために、ユネスコチェア最終年度には、減災に関するガイドラインを作成し、アーカイブ上の災害事例を通して、「減災のためにジェンダーや災害弱者にいかに配慮すべきか」を画像や漫画などを使って「情報の見える化」を図ります。そのために連携機関の研究成果発表・研究交流を行う国際シンポジウムも開催する予定です。

なお、本年4月6日には、ユネスコからSaniye Gülser Corat氏（Director, Division for Gender Equality Office of the Director-General；男女共同参画局長）、福井 武夫氏（Project Coordinator, Section on Earth Sciences and Geo-Hazards Risk Reduction, Division of Ecological and Earth Sciences Natural Sciences Sector；自然科学局 環境・地球科学部 地球科学防災課 プロジェクト・コーディネーター）を招聘し、またインドネシアや台湾などから本事業関係者が集まって、キックオフシンポジウムを神戸大学瀧川記念学術交流会館において開催予定です。

【問合せ先】

神戸大学男女共同参画推進室 特命助教 中原 078-803-5471